

## 編 集 後 記

本学は昨年、大学創立40周年を迎えた。無から有を作り出された関係各位のご努力たるや、如何ばかりであったかを思うと正に脱帽であるが、本年3月をもって定年退職される岡野教授もそのお一人である。

本紀要 *Contexture* も本号で34号を迎える。恐らく大学創立4～5年を経て、当時の教養課程の若手を中心とした教員有志の間で「教養紀要」という意識が生まれ、それが翌年の *Contexture* 創刊号立ち上げへと結実していったのだと思う。これまた脱帽である。我々に出来ることは、その意識を薄れることなく継承していくことなのであり、*Contexture* にも依然として「教養紀要」という副題が冠してある。本号にもそうした意識を持った論文等が5篇寄せられた。

末筆となってしまったが、創刊以来34年に渡り本紀要を支え続けて下さっている、大学を始めご関係の方々のご厚意にも脱帽であり、改めて心より厚くお礼申し上げたい。

(文責：齊藤)